ドバイ日本人学校　No. 18

学校だより　熱　砂

＜発　行＞
令和４年１月 19 日
発行責任者：
校長　和田　政男

学校での新型コロナ感染状況をお知らせいたします。

1/17～18 日，学校を閉鎖しての全面オンライン授業への切り替え，そして 1/19～21 の措置の延長をいたしました。児童・生徒の感染者が増えていることについて，保護者の皆様もさぞやご心配していることと思います。保護者の皆様にも状況をお知らせすることが，より良い感染予防対策につながると思い，このお便りを認（したた）めております。

＜1/10(月)～14(金)の感染状況＞

1/10 は３学期始業式の日。この日学校に連絡があったコロナ陽性者は児童２名。家族の感染で濃厚接触者として隔離期間の登校を控えた児童・生徒は８名でした。冬休み中にドバイで感染が拡がり，２学期はほとんどなかった感染者や濃厚接触者がいきなり増えだしたことを感じましたが，児童・生徒の発症者は多くはありませんでした。

13（木）に１人，14（金）に３人（内１名は３学期一度も登校していないので他生徒との接触はなし）の児童・生徒のコロナ陽性が判明しましたので，それぞれ判明した時点で対象学級は学級閉鎖措置をとることとし，その都度，保護者の皆様にはお伝えしました。

また，ドバイ保健局（DHA）が示す濃厚接触の定義（マスク無しで１m以内に 15 分以上）に照らし，濃厚接触者を調査いたしましたが，濃厚接触者は居りませんでした。

＜1/15(土)～1/16(日)の感染状況＞

15 日に２人の感染報告，16 日の昼までに２人の感染報告がありました。９学級中５学級を閉鎖しなければならない事態となり，校内での感染も否定できないことから，学校全体を閉じ，全面オンライン授業への切り替えを判断いたしました。この時点での全校の感染者数は，７名（隔離期間が終わり登校可能になった児童を除く）でした。

＜1/17(月)～1/18(火)の感染状況＞

全面オンライン授業となった 17 日ですが，前日の日曜日来発熱等で病院に行った児童・生徒のコロナ陽性判明の報告が新たに４名入り，全体の感染者数は 11 名。

17 日夜から 18 日にかけて，さらに陽性判明の連絡が５名入り，合計で 16 名となりました。（職員の感染者は０です）

＜学校での感染防止対策＞

スクールバス乗車時，学校の入り口での体温測定，教室内で机を１m以上離して配置，マスクの着用指導，業間の手洗い指導，トイレや手洗い場等共有スペースの休み時間ごとの消毒，毎日放課後の教室の消毒等，昨年来からの対策を緩めることなく実施し，児童・生徒も職員も，「さすが日本人学校」と言われるほどにしっかりと行っているつもりです。感染者が出る度に，校内，そしてスクールバスの専門業者による消毒作業を入れております。

＜発症した児童･生徒の症状＞

軽い発熱，38℃以上の発熱，のどの痛み，鼻がぐずつく，倦怠感，等のようですが，発熱の多くは，半日，一日で回復し，翌日には元気にオンライン授業に参加しているようです。PCR 検査では変異株の特定は行っていないようで，今の感染がオミクロン株によるものかどうかは判りませんが，明らかにこれまでと感染状況が異なっていることを感じます。

＜クラスター発生？＞

複数の感染者がいる学級で，児童・生徒の位置，あるいはスクールバス内での座席の位置も調査しましたが，席はバラバラであり，やはり，学校内では濃厚接触の特定はできませんでした。ただし，兄弟が居る家庭では，かなりの確率で兄弟共に陽性になっていることが多いようです。土日に市中で感染したと思われるケースも多く，外出の際には注意が必要です。

＜関係諸機関への報告＞

日本の文部科学省，総領事館，学校運営理事会，日本人会，DHA，KHDA に毎日報告をしております。

＜1/18 日，学校を閉鎖しオンライン授業を延長する判断＞

1/18（火），それまでの急激な感染者の増加を受けて，今週いっぱいの学校閉鎖継続の判断をいたしました。判断の材料としては，〇無症状の感染者がある程度居ると思われること，〇従来の濃厚接触の定義では収まらないほどの強い感染力があること。とすれば，19 日に学校を再開したとしても同じ状況が起こりかねないこと。

来週，学校を再開したとしても心配な状況は続きます。「軽い症状であっても大事を取る」「症状がなくてもウィルスを体内に持っているかもしれないことを意識して行動する」お互い，心がけたいものです。

来週からの再開等については，今週末にお便りでお知らせいたします。